

グローバルパートナーシップへ向けた 都市のグローバル化: 福岡市の国際化・脱国境化・地域化・ 地方化



大賀哲
准教授
法学研究院

toga@law.kyushu-u.ac.jp

Q-AOS BBS 2021.6.2

目次

1. 研究課題と仮説
2. 研究フレームワーク
3. 先行研究
4. ケーススタディ：福岡市
5. 結論

1. 研究課題と仮説

- **焦点**
国際交流に関する市の公式見解
- **質問**
市の見解はどのように発展し、変化してきたか
- **国際交流の目的**
国際化、脱国境化、地域化、地方化
- **国際交流の手段**
経済、政治、社会

1. 研究課題と仮説

1)国際交流に関する市の見解は政治的に構成されている

(例：福岡のアジア重視は歴史に根ざしたものではなく、ここ数十年の政治的知見)

2)福岡特有の国際化：地域化のための国際化と地方化のための国際化

(例：福岡の国際交流政策は、脱中央集権化と地方への権限付与のツールの1つとなるであろう)


3)福岡の国際化は、最近の状況では社会的領域よりもむしろ経済的領域に焦点を当てている

(例：経済的側面と比較すると教育的、文化的、人権的側面が軽視されている)

2. 研究フレームワーク

- **国際化:**
国境を越えた地域ベースの交換
- **脱国境化:**
国境を越えたプロセスは国境を越える
- **地域化:**
アジア地域を中心に交流
- **地方化:**
地方への権限付与

2. 研究フレームワーク

| 手段 | 経済 | 政治 | 社会 | |
|------|--|----|-------|------|
| 目的 | | | | |
| 国際化 |  | | | |
| 脱国境化 | | 企業 | 地方自治体 | 市民社会 |
| 地域化 | | | | |
| 地方化 | | | | |

参加者:

地方自治体, 企業, 市民社会

3. 先行研究

サスキア・サッセン: **global city** 国際都市

- 地域主義と地域化の政治的社会的側面よりも、経済的側面とグローバル化とのつながりに重点をおく
- 「都市は通常、その地域の経済に深く組込まれている..しかし **世界経済**トレンドの戦略的拠点である都市はその地域や国家からさえ分離される傾向にある」（強調追加）

3. 先行研究

ピーター・カッツェンスタイン: **Porous regionalism** (浸透性地域主義)

- **グローバル化**: 国境を越えたプロセスは空間を超越し時間を圧縮する
- **国際化**: 国境を越えた地域ベースの交換
- **Porous Regionalism** (浸透性地域主義)

地域主義はグローバル化と国際化の双方を結びつけ強化する多元的プロセスである

3. 先行研究

T. J. ペンペル: **remapping** (再マッピング)

- 「東アジアのマップで、本質的に自明で論理的であり、同等に妥当な代替案の検討を不可能にするものはない」
- 「...異なる問題が発生するにつれ、ほとんどの地域は異なる地理的パラメータを得るようになる」
- 「異なる問題が異なる地域を「作り出す」」

3. 先行研究

エレン・フロスト: **Maritime Asia**（海域アジア）

- アジア専攻（国際関係）
- **Maritime Asia**海域アジア（非国家主体）

沿岸地帯、デルタ、海にアクセス可能な村、町、都市のネットワーク

- 「**Maritime Asia**海域アジアは、国民国家の境界によって定義されているわけでは全くない。それは海から遠くない海に注ぐ川に沿って集まった沿岸コミュニティ、港湾都市、町、内陸貿易接点の時代を超えた広がりである。
- 「陸、海、空、電気通信に加速度的に繋がっているこうした都市エリアは、自発的統合の新しい接点である。」

3. 先行研究

Xiangming Chen: de-bordering国境撤廃 / re-bodering国境再建

- **De-bordering:**国境の解体と国境を越えたネットワークの拡大
- **Re-bordering:**外の世界への確固としたバリアの構築
- 「国境撤廃と国境再建は、ローカルからグローバルまで、あらゆる規模の空間で発生する。国境を越えた国々はグローバルシステムにより多く関与するようになったが、最も強力な越境活動のいくつかはローカルであり、グローバルな結びつきは限定的または良くても間接的である」
- 場所ベースの視点:ハブ都市とその戦略的役割
- ネットワークベースの視点:生産ネットワークと商品チェーン

4. 福岡市: ケーススタディ

- **第1期(1962-1972)**

国際交流政策の創始期

- **第2期(1973-1986)**

国際化の確固たる概念

- **第3期(1987-2002)**

徐々に強調され始めた地域化の見解

- **第4期(2003 – 現在)**

脱国境化と北東アジアとの地域化の戦略的組み合わせ

4. 福岡市: ケーススタディ

第1期(1962 – 1972)

- 都市の国際交流の 黎明期
- 福岡市初の姉妹都市協定であるオークランド市（米国カリフォルニア州）との姉妹都市提携
- 国際交流は姉妹都市交流、単なる文化交流であった

4. 福岡市: ケーススタディ

第2期(1973-86)

- 1972年、福岡市は日本のほとんどの地方自治体に先駆けて「国際事務所」を発足させる
- **国際化のコンセプト**
- 第4次FCCP（福岡市総合計画）
- 福岡市の国際交流は、2000年前の弥生時代の古代にまで遡ることができる。それ以来、中国や韓国と継続的に連絡を取り合っている
- 「海外の文化へ門戸を開く」
- 「国際文化交流都市」

4. 福岡市: ケーススタディ

第2期(1973-86)

(1) [地域化]

地理的隣接性に基づいて国際交流の歴史的経験を考察する

(2) [国際化]

国際都市としての成功へ向けた政治的・経済的要素を強調する

(3) [脱国境化]

市民レベルでの国際交流の新しい概念を考え出す、これは、市民同士の交流、外国人居住者の人権の尊重と保護、その他文化交流などの社会的状況に焦点を当てたものである

4. 福岡市: ケーススタディ

第2期(1973-86)

(4)分散化としての国際化

第5回FCCP(1981)

- 政治的経済的要因へより多く焦点を当てる
- 地方分権化

「私達国全体の国際交流はこれまで中央集権化に大きく依存してきたが、今後は、国や世界レベルでの国際交流だけでなく地方化の時代に適したものでなければならない...」

(下線追加)

- 集中化から分散化へ
- 文化交流だけでなく、経済交流にも注力する (国際化と地方化の組合わせ)

4. 福岡市: ケーススタディ

第3期(1987-2002)

- 地域のエンパワーメントとしての国際化
- 福岡市基本構想 **1987年**
「ダイナミックなアジアの中核都市」
- **第6回 FCCP(1988)**
 - 国際社会における経済的相互依存の観点から見た国際化と国際交流の重要性,
 - 「開放的な市民」

4.福岡市:ケーススタディ

第3期(1987-2002)

- **第6回FCCP(1988)**

- 「国際化は、都市の活性化と市民の生活の繁栄に不可欠である。それは様々な異なる文化や機会との接触を増やし、また情報交換、市民、地域文化、産業に新たなエネルギーをもたらすためである。人間性を広く知ることによって新たな経済エネルギーが生まれ、街の魅力と認知度の向上につながる」 (下線追加)

「国際化が進む中、在留外国人の人権問題など、いわゆる内部国際化問題が顕在化

4. 福岡市：ケーススタディ

第3期(1987-2002)

アジア太平洋都市宣言(1990)

- 歴史的継続的にアジア太平洋地域との深い繋がりを保有
- 日本最古の国際都市

福岡市国際交流推進ガイドライン(1991)

- 国際交流は「国際友好とは定義されていない」が、福岡市は「大都市であるアジア太平洋地域で真に人道的な協力と調和」を追求しなければならない。
- 「国際化が進む中、在留外国人の人権問題などいわゆる内部国際化問題が顕在化してきた」

4. 福岡市: ケーススタディ

第3期(1987-2002)

福岡市基本計画(FCBP), 1996

- 「開かれた文化の入口」と「大陸への貿易拠点」
- 「人的交流を通じて地域および市民レベルで国際的な相互理解と友情を深める」
- 「国際交流による国際性の養成」
- 「国際都市の礎の構築」
- 国際性を発展させ、姉妹都市交流を強化し豊かにするための実体の伴った見識と教育
- 国際都市の中核機能としての外国人居住者の生活環境の調整

4. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

国際交流のより戦略的な利用

- 「福岡市新総合計画」(2003)
- 「アジアとともに生きる都市」
- 九州とアジアを結ぶゲートウェイとしての「幅広い交流機能」
- 「アジアの奥深さ」
地理的近接性を活かした北東アジアとの関係強化
- 「アジアの幅広さ」:文化交流やNGO活動を通して東アジアを超えたアジア地域全体との国際交流の拡大

第4期(2003-現在)

福岡市国際化推進計画 (2003)

- **地球市民**

国際化は異文化理解と人権意識の醸成を通じて「地球市民としての意識と視点を育む」

- **アジアとの交流拠点**

国際交流の基盤として都市計画を深め発展させ、アジア諸国との共存共栄を模索する

4. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

福岡市国際化推進計画(2003)

- ・ グローバル化への対応

国際競争が激化する中、構造改革を加速させ新しい流通方法を開発するだけで十分かもしれない。言い換えれば福岡市はその強みを活かしたより戦略的な施策が求められている。

4. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

福岡市国際化推進計画(2003)

- **コクサイ-リョク** [国際力]

「自国の文化や歴史、他国の文化、人権意識を深く理解する能力、地球市民としてグローバルな視点で考え行動する意思、語学力を含むコミュニケーション能力」

4. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

福岡市国際化推進計画(2003)

- ・ 交流・連携の4つの領域
- 1. 北東アジア 「主に経済的側面に関して、優先的關係を強化する」
- 2. 東南アジア 「経済、文化、市民活動などの交流を深める」
- 3. アジア太平洋地域 「文化交流、国際交流を中心とした交流の進展」
- 4. 世界の他地域 「国際機関や姉妹都市協定等を通じて国際交流・協力を推進」

4. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

全体構想 2011 (2008)

- 「日本全体が東アジアの活力を吸収するための政策に加速度的に力を入れてきたが、将来の福岡の都市計画によって福岡市が発展させてきたアジアとの関係を深め、広げる事が重要である。東アジア・九州との交通の利便性の確保、人・モノ・情報・投資の流れを拡大し、アジアの人々に好まれる、九州・アジアの新時代にふさわしい都市計画を進める」 (下線追加)。

5. 福岡市: ケーススタディ

第4期(2003-現在)

9th FCCP (2012)

- 生活の質の高い持続可能な都市
- アジアのハブ都市
- 生活の質の向上と都市の成長
- 経済と産業重視
- 人権の尊重と男女平等については言及されているが、外国人については言及されていない。
- 地球温暖化、循環型社会、生物多様性、コンパクトシティ
- 経済重視：インフラ開発、グローバル人材、ビジネス交流

結論

- **国際化**

都市の施設を改善および調整し、国際都市として機能することを旨とする経済主導の政策。

- **脱国境化** 「地域の国際化」、外国人住民の生活環境と人権状況の改善。都市の施設を改善および調整し、国際都市として機能することを旨とする経済主導の政策。

- **地域化**

韓国や中国などの近隣都市との政治的に構築された緊密な関係を強調した。

- **地方化** 上で議論された国際交流政策を通じて、地方政府のために地方のエンパワーメントを構築する。

結論

単にグローバル化の経済効果に依存するだけでなく、地域化と地方化の自律的なプロセスも含める